

ミュージシャンの医学者 倉敷・大槻剛巳さん



川崎医科大学(倉敷市松島)の教授室。講義を終えた大

環境免疫学
テーマなど
自作400曲。

大槻剛巳さん(58)は同市山地
が電子ピアノでバラ
ード調のメロディーを奏でな

がら、情感のこもった歌声
を響かせる。
「古い研究ノート開けば
よみがえるあのころの情
熱 今も思いは変わらない
まま 環境と予防を科学に
託す…」

購入した制服の付録と
してギターをもらったの
がきっかけ。当時、全盛期
だったフォークソングの
影響を受け3年間、自宅近
くの教室に通い腕を磨い
た。

中高生時代
作詞に挑戦
TV出演も。

中学3年の時、地元ラジ
オの深夜番組が、リスナー
から募った歌詞に曲を付け
て放送していることを知
り、作詞に挑戦。女子の淡
い恋心を、はかなく浮かん

後進育成、医療の広報に



日本衛生学会学術総会の講演で自作の曲を披露。医療の広報
や後進の育成に役立てている=2013年3月、金沢市



された。「公共の電波で自
分の詞をのせた歌が流れ

返る。
「当にうれしかった」と振り



開業医の父の勧めで地元
を離れ、倉敷市の川崎医科
大付属高に進学後も作詞作
曲に励んだ。高校1年の春
には、公募した楽曲を歌手
が歌うNHK番組「あなた
のメロディー」で審査を通
過し、テレビに出演。ヒッ
ト曲「バスタップ」で知
られる平浩「さん」目の前
で歌ってもらい、曲作りへ
の自信と意欲は一層強まっ
た。川崎医科大に入学する
とジャズピアノのレッスン
を受けながら、友人とパン
ドを組み、演奏活動を続け
た。

では割れるシャボン玉にな
るなんて信じられなかつ
た。両親も喜んでくれて本
ぞらえた作品が見事、採用

仕事に没頭し、音楽から遠
ざかった。ミュージシャン
として「復帰」したのは、
教授就任後の2006年。
学会の懇親会で出し物と
して約25年ぶりに持ち歌
を披露したのを機に、昼
休みなどの空き時間を使
い、曲作りを再開していっ
た。

今は電子ピアノとパソコン
を駆使してオリジナル曲
をレコーディング。昨年末
には11曲を集めたアルバム
をリリースし、インターネ
ットでも配信している。収
録曲にはラフソングや学生
ら若者へのメッセージを込
めた作品もある。
「機材の精度が上がって、
高音質で表現豊かな曲を作
れるようになった」とミュ
ージシャンの顔をのぞかせ
る。その一方で、学生の勉
強意欲を高める「応援歌」
や市民向け講座用に医療に
親しみを持ってもらえる曲
も制作。「音楽を後進の育
成や医学の広報に活用でき
ないかと考えている。これ
からも歌い続け、仕事に生
かしていきたい」

アルバムを
リリースし
ネット配信。

大学卒業後は、川崎医科
大で診療や研究・教育活
動に携わり米国にも留学。

愛用の電子ピアノで弾き語りをする大槻さん

オリジナル曲を集めたアルバム

た。

(安部晃将)